

(協働版)

※(協働版)とは…

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺において、地域のみなさまとの協働による景観づくりを進めるため、ヒアリングやまち歩きなどの取組を通じ、その地域固有の歴史的資産の特徴、まちの成り立ち、歴史、文化等といった地域ならではの情報や地域のみなさまの思いなどの情報を取りまとめたものです。

待鳳学区

1 待鳳学区の歴史

凡例：

- まちな歩きやヒアリングによる情報等
- 文献等による情報

【周辺の特徴】

・待鳳学区が位置する紫野は、平安京北部に広がる7箇所の野(七野)のひとつである。平安時代には貴族の遊獵の地(禁野)として、また、春若菜を摘んで楽しむ地として知られ、染色に使われる紫草が生えていたことから「紫野」と呼ばれるようになったといわれる。
 ・明治維新後、京都府愛宕郡東紫竹大門村、後の大宮村に属した。大正7年に京都市上京区に編入、昭和30年に分区し、北区へと変わった。

江戸、昭和、令和の地図からひも解く待鳳学区の歴史

1 今宮神社参道



かつて存在した「すり鉢池(7参照)」の水が今宮神社や大徳寺を経て堀川へ流れていた。今宮神社参道の東に、当時の石橋の跡が残る。
 かつてここに今宮神社の石鳥居があった。



東西の参道が今宮神社本来の参道である。昭和30年代前半までは、石畳の参道が西へ続いていた。その名残が楼門北西にある。

2 今宮門前通



元は大徳寺の境内地だったが、大正~昭和にかけて道路が開通した。

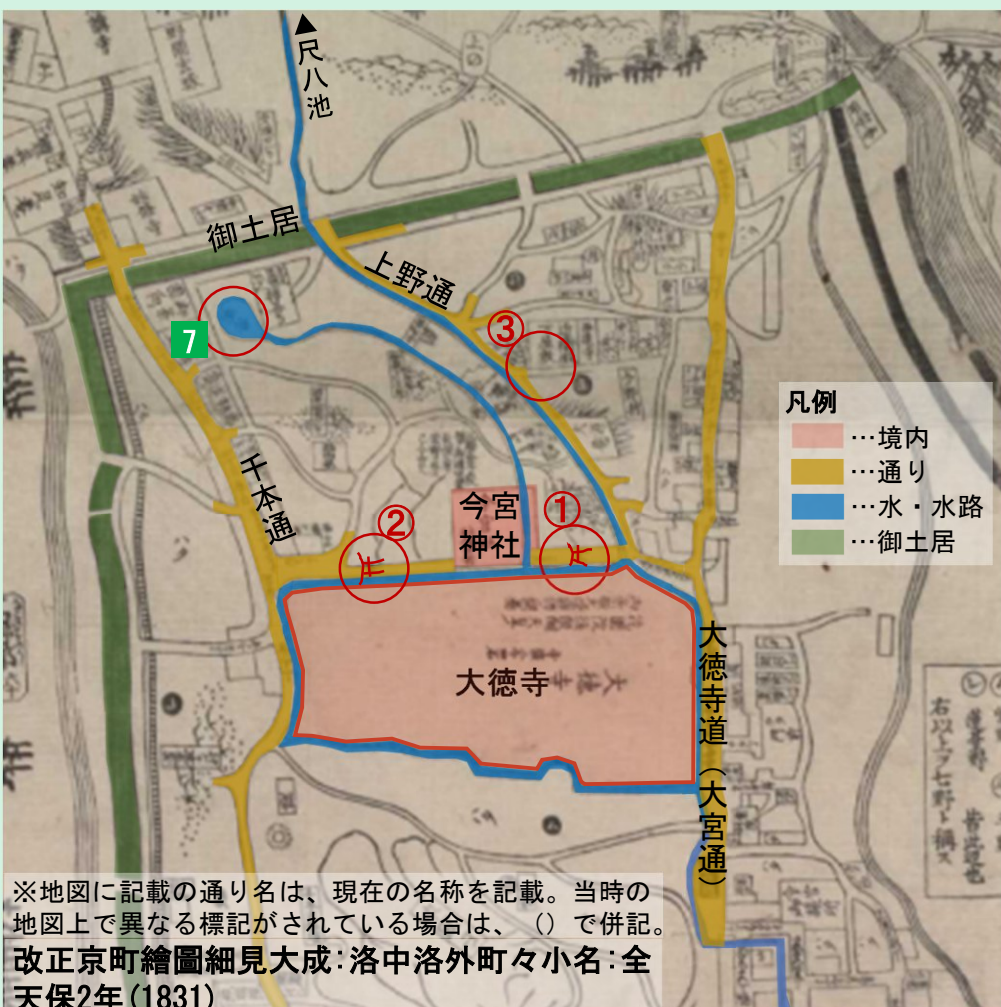
3 御土居



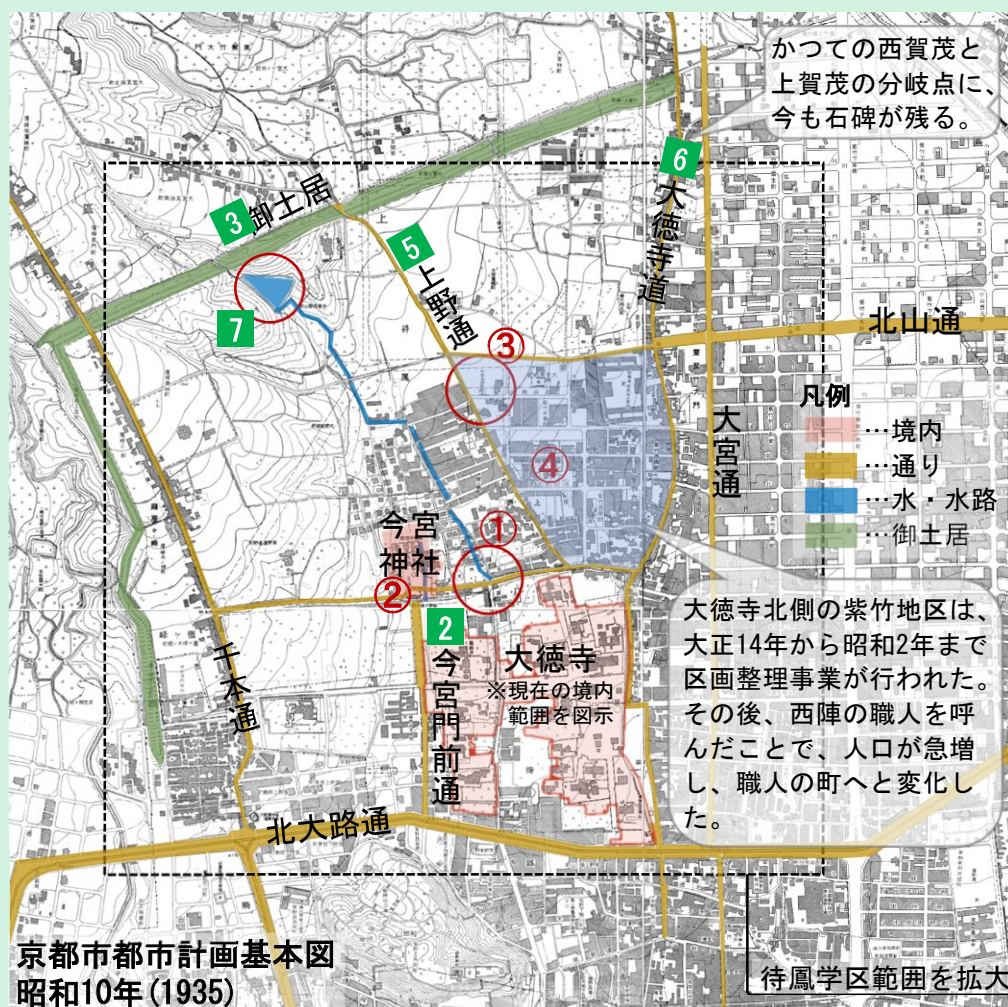
御土居には長坂口以外にも口が設けられていた。
 かつては旧市街地との境になっており、タクシー料金もここで変わった。



▲史跡に指定
 京都の都市改造の一環として、天正19年(1591)に豊臣秀吉により造られた土塁と堀。総延長は22.5kmに及ぶ。御土居には「口」と呼ばれる出入口があり、千本通には京の七口の一つ、長坂口が設けられた。1-1)



街道沿いに町が形成され、その周辺には畑(ハタ)が広がっていた。今宮神社の東西には鳥居が立ち、すり鉢池や尺八池から流れ出た水は、大徳寺周辺を囲む堀へと通じていた。現在の千本通や上野通、大徳寺道は、北へ向かう街道として古くから存在していた。



市電が走る北大路以南や大宮通以東は、区画整理により宅地化が進んだ。上野通と大徳寺道の間は建物が並ぶ一方、周辺は田畑が広がっていた。大宮通は大徳寺道に名称が変更され、北山通や千本通は区画整理により道路幅が拡張した。



北山通等の都市計画道路の開通により現在の町並みが形成された一方で、大徳寺道(旧大宮通)や上野通等、これまでの道筋をそのまま残す通りもある。こうした旧街道周辺には、古い建物が多く残っている。また、御土居も一部を残して宅地等へ変化した。

4 牛若丸生誕の地



牛若丸は、源義経の幼名。現在の紫竹牛若町付近に生まれたといい、誕生井・産湯井と胞衣塚(えなづか)と伝えられるものがある。¹⁻²⁾
 周辺には牛若丸伝説が残り、紫竹牛若町や牛若通等、伝説に由来する名も残る。

大正期に行われた区画整理により源義経産湯井の跡が失われたため、由緒を伝える石碑が建立された。2021年に撤去され現存しない。
 石碑には、区画整理を行った歴史も刻まれていた。

5 上野通



上野町周辺には、京都市編入当時、数多くの西陣織業が存在していた。¹⁻³⁾
 かつて上野通は、鷹峯と西賀茂へ行く御土居の口に繋がっていたことから賑わいのある通りであった。

6 大徳寺道(旧大宮通)



千年前からある道。大正天皇妃殿下行啓の折に通行された際は、家に紅白幕を掲げ歓迎した。

7 大宮西野山児童公園



かつて「すり鉢池」があった。埋め立てられ、児童公園に変わった。

待鳳学区

2 今宮神社を中心としたつながり

凡例：
 まち歩きやヒアリングによる情報
 文献等による情報

【周辺の特徴】

・観光客を迎えながらも落ち着いた住環境が維持されており、暮らしと観光が程よく調和した地域である。
 ・今宮神社境内には、多くの摂社・末社があり、氏子区域から遷座されたお社もある。1年を通して多くの祭礼が執り行われ、地域とのつながりも深い。

社寺

8 今宮神社

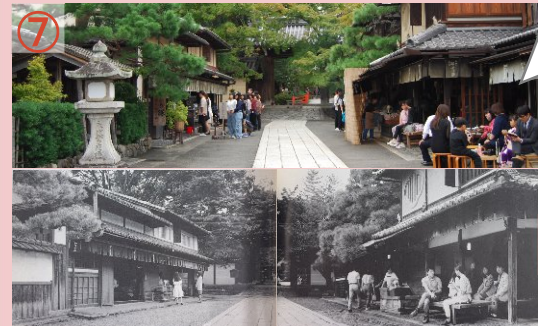
正暦5年(994)に船岡山一帯で疫病鎮めの御霊会が行われた(⇒今宮祭のルーツとされる)。長保3年(1001)の疫病流行の際、再度御霊会を行い、現在の地に神殿三字を造営し、今宮社と号し、この両御霊会をもって今宮神社の創祀とされている。²⁻¹⁾



▲本殿



▲楼門



今宮神社の正参道は東側の通りである。今も昔も変わらない光景が広がっている。今宮神社を出ると、東に比叡山が眺望できる。

▲上：現在の参道
 ▲下：昭和期の参道
 (出典：史料京都の歴史第6巻)

桂昌院(お玉の方)
 徳川綱吉の生母。元禄期に幕府が今宮社の復興に力を入れたのは、桂昌院の存在が大きい。²⁻²⁾

お玉の方は、感謝を忘れない心暖かな幸せを願う良縁参りで知られる。



▲境内にあるレリーフ

9 今宮神社の主な祭礼

4月 やすらい祭

重要無形民俗文化財の指定を受ける、京の三奇祭の一つ。今宮神社境内で大鬼が輪になってやすらい踊りを奉納する。現在、今宮のほか、上賀茂、川上、玄武の3つのやすらい祭がある。²⁻³⁾、²⁻⁴⁾



5月 今宮祭(神幸祭・還幸祭)

神幸祭は毎年5月5日に執り行われ、御輿3基が今宮神社御旅所へ渡御する。還幸祭は15日前後の日曜日に執り行われる。氏子域を剣鉾や御輿等の祭礼が巡幸する。愛宕の神を奉じる桂昌院ゆかりの牛車も列に加わる。²⁻⁵⁾



令和4年の大鳥居再建を機に、神幸祭の出発を今宮門前通へと変更した。

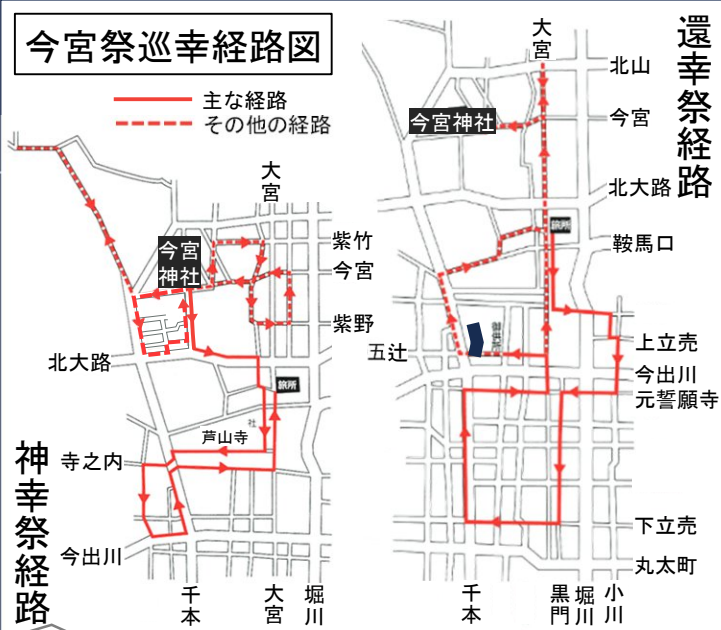
8月 織姫七夕祭



織姫社 織物の祖神、栲幡千千姫命(たくはたちぢひめのみこと)を祀る。織部司が住む白雲村・村雲村に創祀され、江戸期、西陣機業家により現在の地に遷された。²⁻⁶⁾

祭は本来、何かの願いを込めて執り行うものである。今やるべき祭の姿を求め、10年前に織姫社の祭礼を復活させた。

思いに賛同した方の手作りで行っている祭で、奉納する演奏や舞なども、参加者で実施。参加者同士のつながりも生まれている。



ムラサキノハレ

ムラサキノハレとは… 今宮神社を中心に“産子地域のつながり”を取り戻すために活動する地域団体。人やものの循環をテーマとし、神社の思いに共感してくれる人を増やすことを目的のひとつとしている。ハレトケ市の開催や、織姫七夕祭を始めとする今宮神社の祭に協力している。

ハレトケ市 地域の良さを伝えるべく、今宮神社の境内で「循環」をテーマに年2回開催している。趣旨に賛同する出店者を募り、来場者との対話を楽しみながら商いを行うスタイルとしている。



今宮神社とゆかりの深いあぶり餅

あぶり餅は今宮神社の神饌菓子。平安中期、一条天皇の時、今宮神社創祀にあたり疫除けの意味で供えたのが初めと伝わる。²⁻⁷⁾



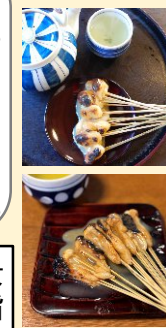
▲あぶり餅 根元かざりや



▲あぶり餅一和(一文字屋和輔)

古くから参道の茶店として営業。七五三詣等、家族で晴れ着を着てあぶり餅を食べていた。地域に根付いている。

あぶり餅一和は景観重要建造物に指定。創業千年以上の歴史がある。²⁻⁹⁾



▲あぶり餅

待鳳学区 3 社寺

凡例：
 まち歩きやヒアリングによる情報等
 文献等による情報

【周辺の特徴】
 ・古くから地域の信仰を集める社寺が点在しており、今も人々のつながりを育む大切な場として、地域に根差している。特に、今宮神社、總神社、紫竹貴船神社は、地域の三社として、地域の方に大切にされている。
 ・旧街道が残る北山通以南には、お地蔵様が多く位置している。

社寺

注意) 掲載している寺院は、観光寺院ではありません。

12 總神社



賀茂別雷神社三十八社の一つで、源義朝と縁があり、付近別邸があったとも言われる。創祀年代は明らかでないが、社僧の始まりは天武天皇白鳳年間と伝えられる。神社の森は、菅原道真公が流刑される際、宮守であった叔母を訪ねた古事から、「菅宿の森」と呼ばれていた。³⁻¹⁾

上野・川上やすらいが總神社を詣でた後、今宮神社へ向かう。

樽神輿は住民が樽を飾り付ける。

毎年10月に例祭が執り行われ、樽神輿や行列が6町の氏子域を巡幸する。3基ある神輿は、各町が所有しているもの。



13 紫竹貴船神社



鎌倉時代に鞍馬山麓の貴船神社の祭神である高麗神(たかおかのかみ)を勧請して創建されたと伝わる。³⁻²⁾

毎年10月に例祭が執り行われ、1基の御神輿を先頭とした行列が氏子域を巡幸する。

境内は、氏子区域である8町内の方々が交代で、清掃活動を行っている。

例祭を継続できるように頑張っている。神輿のくり方や担ぎ方など継承していく必要がある。



14 常德寺



日蓮宗の寺院で、寺伝によると、平安期の創建で、関白藤原忠実の隠居所知足院が前身と伝える。また、常盤御前が身を隠したとも伝えられ、牛若丸の安産を祈願した地蔵、常盤地蔵を安置している。³⁻³⁾

寺院宝物の修復をきっかけに令和7年4月に初めて一般公開を行った。その際に門前の仁王像を新たに設置した。

17 西向寺

寛永年間(1624-1644)創建の浄土宗の寺。境内にある地蔵菩薩板石塔婆は明徳2年(1391)一結衆30余名が逆修のために建立したもので、京都の三板碑に数えられる。³⁻⁶⁾ 逆修：死後に行う仏事を生前に行うことをいう。



15 光念寺



浄土宗の寺院で、常盤御前の守り本尊と伝える腹帯地蔵を安置する。明治初年、腹帯地蔵を安置する地蔵寺と開山念光上人の光念寺が合併し、現在に至る。³⁻⁴⁾

気づけば境内にお供え物が供えてあることもあり、地域の方のお参りも多い。



今宮やすらいの出発地となっている。

16 招善寺



寛永3年(1626)に創建された浄土宗の寺院。心誓是西上人の開基で、師の浄土宗捨世派の開祖称念上人を初代とする。民寺で、念仏の信者の協力によって建てられた。³⁻⁵⁾

境内には、ツツジを配した枯山水庭園のほか、非公開であるが坪庭や南庭もある。



お地蔵様

18 地藏盆



▲紫野上野町の地藏盆の様子(安良居地藏尊)



帰省の時期であるお盆に行うため、コミュニティの場として有効で無くしてはならない。

ふごおろしは、子どもたちも楽しみにしており、残していきたい。

ふごおろし：一般的に、「ふご」と呼ばれるかごに、福引で当たった景品を高所から吊り下ろす催しのこと。



▲本牛若町の地藏盆の様子 3-7)

19 地域のお地蔵様



学区内にはお地蔵さんが多いが、今宮町には、今宮神社があるからお地蔵さんがいない。

紫野上野町だけが8体もお地蔵さんがいる。

なんでこんなに地藏が多いのか...

待鳳学区 4 地域コミュニティ等

凡例：
まち歩きやヒアリングによる情報等
文献等による情報

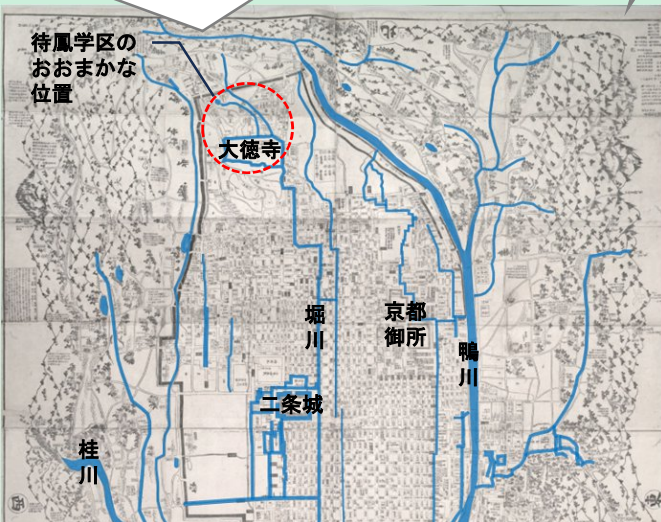
【周辺の特徴】

- ・荒木家が位置する今宮通沿いには、古い京町屋が多く残っている。
- ・待鳳小学校等で実施している地域の行事も活発で、地域住民の結びつきが強い。
- ・学区内に小・中・高等学校がそろっている。学区の西隣には大学もあり、教育機関がそろっている学区である。

文化や営み

20 かつての水の流れ

待鳳学区周辺にはかつて有栖川が流れており、水があることで、農業や茶の湯文化、西陣織などが広がった。農家も多く、五穀豊穡を願い神社に実りを奉納していた。



▲改正京町繪圖細見大成：洛中洛外町々小名：全 天保2年(1831)

かつて待鳳学区付近には、流れる場所・川の名称の差異があるものの、様々な絵図に、当地域一帯に水の流れがあったことが記されている(左下に一例を示す)。そして、地域一帯の水は堀川に流れ込んでいた。現在は、その流れをほとんど確認することができない。

①上野湯



待鳳学区周辺には、現在も創業100年の銭湯(上野湯)や豆腐屋など、水に関する商いが多く残る。

②大徳寺温泉



学区内には銭湯が2軒ある。かつては③牛若温泉や④安来湯もあった。織屋には風呂がなかったことも銭湯が多い理由の一つ。

22 大徳寺と茶の湯文化

大徳寺は、村田珠光の一休宗純への参禅を契機に茶人の参禅が相次ぎ、「大徳寺の茶づら」と称されるようになった。茶の湯を大成した千利休が門前に不審庵を設けたことに象徴されるよう、茶道との縁が深く、現在も茶室を擁する塔頭が多い。現在も開山忌には、本堂で献茶式が執り行われている。4-1)、4-2)、4-3)



塔頭の一つ、聚光院では、三千家(表千家、裏千家、武者小路千家)が交代で月釜を行っている。

21 西陣織業



▲動力用の電源を引いていた跡が残る ▲かつての西陣織の様子 4-10)

かつて上野町周辺の約8割は織屋であった。織屋建ての建物も多かった。

建造物・石碑

23 荒木家(旧林家)住宅

主屋は国登録有形文化財、景観重要建造物に、土蔵は国登録有形文化財に指定されている。農家と町家の特徴を併せ持つ遺構として知られる。4-4)



地域で大切にしていきたい建物である。大徳寺で宮大工をされていた方が住んでいた。

25 貯蓄報国の碑



24 新織縺子碑(しんしよくしゆすのひ)

西陣織のなかでも縺子の製造法を改良した永井喜七の功績を、国産品奨励の立場から顕彰した碑。喜七は明治初年(1868)に輸入品に押されて衰退した西陣縺子を、蒸気機関を使って製造することにより挽回することに成功した。4-5)

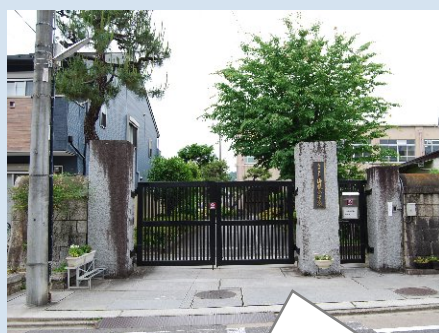


26 招魂碑



地域コミュニティ

27 待鳳小学校



待鳳とは、「おおとり」のような人物の輩出を待望する、という思いからつけられた名前である。

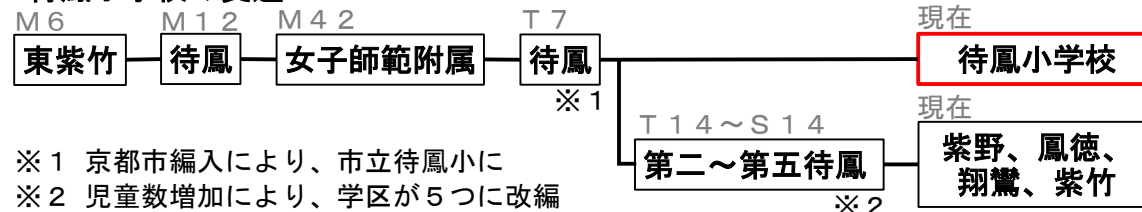
明治6年(1873)、創立東紫竹小学校として開校。同12年(1879)紫竹東南、次いで現在地に移転し、待鳳小学校と改称。校名は同年榎村知事から贈られた「待鳳館」の扁額にちなむと伝わる。4-6)



▲右から、フジ、ヒマラヤスギ、ソメイヨシノ 4-7)

小学校の敷地内にある3本の区民誇りの木は、学校の移転時等、歴史の節目に植樹され、大切に守られてきた。

一待鳳小学校の変遷一



待鳳小学校で行っている地域の行事



自転車安全教室 5月に、小学生を対象に府警を交えて開催。交通ルールを守るために、地域全体で開催していきたい。



待鳳まつり 毎年8月に開催。夏休みの子どもたちを中心に楽しい思い出を作してほしい。地域の学生によるブラスバンド演奏等も行われている。



区民運動会 毎年10月に開催。昔に比べて人は減ったが学区民が集まり交流できる貴重な場。こうした場を増やしていきたい。



防災訓練 毎年10月に開催。防災意識の向上や知識の習得、被害軽減などを目的に防災訓練が行われている。

28 防火祈願祭

毎年防火祈願祭を今宮神社で執り行い、祈祷したお札を学区の住戸へ配布している。祈祷には各町内会長も参加する。



火災は人の手で減災できる。みんなの努力で火災のない穏やかな学区にしていきたい。

29 新大宮商店街



約50年前に新大宮商店街振興組合が成立。約30年前に、歩道のない道路だったところを、買い物がしやすいよう歩道を整備し、現在の姿へ変わった。長さは約1kmあり、京都で一番長い商店街で、約100店舗が軒を連ねる。

以前は、15時から19時まで歩行者天国を実施していた。商店街を7つの街区に分け、日替わりで会場としたことで、毎日どこかで歩行者天国やセールをしていた。



▲上：現在の様子 下：昭和32年(1957)の様子 4-8)



大宮商店街夏まつり 待鳳学区や鳳徳学区の各団体や、商店街の皆様による様々なブースで毎年大賑わいの夏まつり。令和7年で幕を閉じた。

